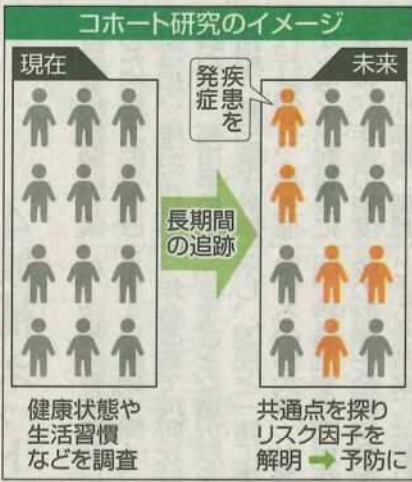


住民の健康

賀茂地域6市町

長期追跡調査

静岡社会健康医学大学院大(静岡市葵区)は本年度、疾病のリスク因子解明に向け地域住民などの集団を長期追跡調査する「静岡多目的コホート研究」に乗り出す。本年度は12月から3カ月間、賀茂地域6市町で地域住民に協力を募り調査を行う。2022年度以降は県内他地域にも範囲を広げる予定で、健康寿命を延ばす食生活や生活習慣などの在り方を探る。



本年度の調査は「ペー」を行い、次の5年間で「スライン調査」と呼ばれ、調査協力者の身長や体重、血圧、血管年齢や運動機能、生活習慣などの幅広いデータを集める。5年間かけて各地で同様の調査を蓄積する構想だ。本年度は賀茂地域で

コホート研究 一定規模の集団を対象に、健康診断や生活習慣の記録を長期間かけて蓄積するなどして疾病にかかる人のデータを分析する研究方法。同じ病気になった人の共通点を探り、食生活や生活習慣などのリスク因子の解明や予防法の確立に役立てる。
大学院大の取り組みと同様に、同じ地域

の住民を対象とする国内の「地域コホート」は、1960年代から九州大が福岡県久山町で実施している「久山町研究」のほか、滋賀県長浜市、大阪府能勢町などの例がある。
県内では2009〜11年度に、掛川市で緑茶の効能研究を目的としたコホート研究が実施された。

地元医師会や市町などの協力を得て実施する。調査の際には最新の予防医学に基づき情報発信も行い、参加者の健康づくりに対する意識向上も図る。研究を主導する同大学院大の田原康玄研究科長は「参加者は自身の健康状態を定期的に確認でき、疾病の早期発見や生活習慣を見直すきっかけにもなる。研究とともに健康なまちづくりにもつながるのがこの研究の特色」と強調する。

過去のコホート研究からは、日本人の死因で最も多かった脳卒中を予防する血圧や減塩の指標が生まれた。今後は、高齢化で増加する認知症やフレイルの

「い」と話している。
(政治部・杉崎素子)